

# <九州地区>

～勤務経験と市場の声を生かした生産で新たな地域の担い手へ～

## 1 農業経営の概要

就農地	熊本県
氏名(年齢)	梅田 親祐(38歳)
営農類型(規模)	花き(バラ苗、50a)
農業経営開始時期	平成26年2月
労働力	2名(本人、妻)



## 2 就農までの経歴・就農のきっかけ

- ① 実家は非農家であったが、学生時代に農業に興味を持ち、農業の専門学校に入学。さらに大学で園芸を専攻(計5年間)。その後、知り合いの紹介で、産地である岐阜県で7年間バラ苗生産販売業者に勤務。バラ苗の生産から販売までを一から学び、自分で作ったものを売る喜びを味わい、農業経営に関心を抱くようになった。
- ② その後、熊本で観光地として有名な公園内のバラ園管理責任者を7年間務める。
- ③ 36歳の時に義父の遊休農地を借受け、バラ苗経営を開始。同年にハウス、台木購入等のため、青年等就農資金を借入れ、経営規模を拡大。

## 3 営農において工夫している点・資金を利用した効果など

- ① バラ苗は個人出荷が大半のため、市場調査の重要性を岐阜勤務時代に痛感。熊本のバラ園勤務時代に積極的に培った地元バラ卸売業者との人脈や、植木市で消費者の声を直接聞くことにより、九州で需要のある品種・色等を調査して、気候条件等と合わせて生産に反映させている。
- ② 台木の自社生産には数年を要するため、資金を利用して当面の台木購入費を賄うことができた。さらに資金を利用したことで、様々な品種を試験的に栽培し、最適な品種を選定する時間を捻出することができた。

## 4 今後の経営展開(抱負)

- ① 当面の目標は、5年後を目途に生産量を年間3万本まで増やし(現在は約1万5千本)、人を雇い、販路も多様化すること。さらに、台木を自社生産に切り替え、コストの削減を図る。最終的には5万本まで生産を増やし、後継者不足が著しいバラ苗業界において、地域の担い手になりたい。
- ② 将来的には農場横にバラの直売所を開設し、個人のお客さんに直接販売したい。